# 日本・朝鮮及び台湾の蝶類に関する新知見

村　山　修　一[1]

# Some new butterflies from Japan, Korea and Formosa.

By SHU-ITI MURAYAMA

私は以下本文で２新種，１新亜種，１新季節型，４新異常型を記載する．

## NYMPHALIDAE

### *Neptis rivularis peninsularum* n. ssp. フタスジチョウ（新亜種）(fig. 2 & 11)

朝鮮のフタスジチョウは白水氏（Sieboldia vol. 1, No. 1, 1952）によって亜種 *magnata* に属せしめられたが，蒙古から記載された *magnata* HEYNE（RÜHL, Pal. Gross-schmett. p. 776）(Fig. 1 & 10）と朝鮮産の標本には一致しがたい点が見出されるので今回朝鮮のものを別亜種として新たに記載することとする．

本州産のものに比し♂♀とも表面の白斑は総じてよく発達し，前翅中室の白条は判然し，第１ｂ室，第２室の中央白斑は大形，後翅中央の白帯もおおむね巾が広い．裏面地色は褐色味強く表面同様白斑はすべて大きく，白斑の周囲は黒色で縁取られるが地色褐色味が強いため白斑は一層鮮明にみえる．前翅長は大体本州のものと変りなく *magnata* のように大きくはない．なお手許には北満方面のもの（Yablonya, 14. VII. 1929）で前翅長20 mm 位の小形で而も白斑は *aino* のように発達した個体があり，これらはまた別の亜種として取扱わるべきかもしれない．また *magnata* は大形である割に白斑の発達はよくない．満州の南部が本亜種に，西部及び北西部のものが *magnata* に入るのではなかろうかと考えられる．

Holotype 1♂（前翅長25mm), Allotype 1♀（前翅長29mm), Paratypes 71♂♂ 6♀♀ 以上10～22. V. 1959 京畿道光陵; 1♂ 29. VI. 1940, 1♂ 16. VII. 1940, 1♂ 26. VI. 1940, 以上白頭山高原; 1♂ 19. VII. 1942 白茂高原　なお *magnata* の原記載をみせられた W. FORSTER 博士にお礼申上げる．

次に本亜種の異常型を記載する．

***N. rivularis peninsularum*** ab. ***seouli*** **ab. nov.** (fig. 3 & 12) 表面前翅中室の細い白条と中室端の白斑を除き白斑紋はすべて消失，第２・４・５各室外縁近く淡色の斑を少しくあらわすのみ．後翅も内縁第１ａ室の白斑を除きすべて消失する．裏面前翅第２・３各室の大形白斑，第４・５・６・７各室の白斑紋消失，但し外縁に近い白斑は消えない．後翅中央の白帯消失し，あとは小形な暗色斑列の痕跡をのこす．

Type 1♂ 14. V. 1959 京畿道光陵産

いま１つの個体は全体に表面の白斑著しく退化した型（fig. 4 & 13）で而も後翅の中央帯が左右で退化の仕方を異にしている．少しく畸型的であるから命名しない．1♂ 14. V. 1959 光陵産

以上朝鮮産タイプはすべて村山所蔵

次には台湾産 *Neptis* の黒化型４個体を記載するが，元来基本型についての分類が確立していないので将来再検討の必要が起るかもしれない．

### *Neptis aceris acerides* ab. *diabolus* MURAYAMA et CHUNG **ab. nov.** (fig. 6 & 15)

Type 1♂ 1956年夏 埔里附近，前翅長27mm，陳所蔵，前後翅を通じて表面の色調一層黒化している．表面前翅中室の横帯及び三角斑は大体正常型に近くのこっているが，第１ａ・１ｂ各室の中央白紋は小形となり，第２・３・５・６各室中央の大形白紋は消失，第７室の小白紋も消失，第２・５・６の外縁に近い白紋は小形の白点と

1）大阪府茨木市新庄町 744

なり，第3・4各室の白紋は淡色の痕跡を残すのみ．後翅中央白帯は内縁に明瞭な白紋を残し，第6室にも淡色の痕跡を残す，亜外縁の淡色白紋列は痕跡を残して消失，それと中央白帯との間には淡色の小白紋列あり．裏面地色著しく赤褐色味加わる．前翅第1・2・3・5・6各室の中央の大きな白紋は消失，外縁の細い白紋列は各室に残るが，その内側の白紋は第1・2・4・5・6各室に退化して残り，第3・7・8の各室では極めて微小な白紋となる．後翅中央白帯は内縁及び第4・5・6各室に痕跡を残すのみ，外縁の白線紋列は明瞭に残り，その内側には太い白紋列があり，外縁に対しては一直線にならばず弓状にそる傾向がある．これらの各紋は上下に黒鱗を交えるため輪廓は不明瞭である．

Fig. 1 & 10 *Neptis rivularis magnata* HEYNE (Nekka) LF:30mm. Fig. 2 & 11 *N. rivularis peninsularum* nov. Paratype (Korea) LF:25mm Fig. 3 & 12 *N. rivularis peninsularum* ab. *seouli* nov. Holotype (Korea) LF:24mm. Fig. 4 & 13 *N. rivularis peninsularum* ab. (Korea) LF:25mm. Fig. 5 & 14 *N. rivularis insularum* FRUHSTORFER (Honshu) LF : 26mm.
LF=Length of Forewing

*Neptis soma lutatia* ab. *jacouleti* WATARI (fig. 7 & 16) 渡氏 (Zephyrus vol. 9, No. 2, Tab. 6, f. 4 & 6) の写真があまり鮮明でないので，果して同氏のものに一致するかどうか疑問がないでもないが，いまは一応同氏の学名を用いておく．

1♂ Taichong-26. VII. 1955. 前翅長 29mm. 陳所蔵 翅表全体に地色は黒色が一層強い．とくに前翅外縁一帯は濃黒色である．表面前翅中央横帯の先端にある三角斑は僅かに痕跡をのこすのみ，第1室はa，b各室とも中央の白紋は微小の白点となる．他の各室白紋はすべて消失，外縁に近い小形の白点列は第2・3・4・5各室のもの僅かに淡色の点となって痕跡をのこす．後翅正常型における中央白帯は内縁に近い部分に2つの小白点紋と第6室外縁近くの小白点紋をのこして消失し，亜外縁の白色線条紋列も消える．その中間には第1・2・3・4各室に小形の小白紋列をあらわす．裏面地

Fig. 6 & 15 *N. aceris acerides* ab. *diabolus* nov. Holotype (Formosa) LF: 27mm. Fig. 7 & 16 *N. soma lutatia* ab. *jacouleti* WATARI (Formosa) LF: 29mm. Fig. 8 & 17 *N. mahendra reducta* ab. *reductissima* nov. Holotype (Formosa) LF: 32mm. Fig. 9 & 18 do Paratype (Formosa) LF: 30mm.

色著しく褐色味強く紫色の光沢を帯びる．中室横帯先端の三角斑は退化して小形となる．第1・2・3・5・6・7各室の大形白紋は退化し，1a室のみ小形の白斑となる．第1・2・4・5各室には外縁近くに小白線をのこし，その内側には第2・3・4・5各室に小白紋をのこす．但し第3室のは極めて小．また第6室にも亜外縁に不鮮明の小白斑がある．後翅中央白帯は内縁に稍々顕著な白紋をのこし，中室・第5・6各室には極めて小形の白紋をのこす．外縁の白線帯は稍々太くなり白色味が一層強いが，黒鱗を交えるためその輪廓は不鮮明，この白線帯と中央白帯の間には巾の広い白色紋列あり，これも白色味が強いが上下両端に黒鱗が多く輪廓は不鮮明になっている．

*Neptis machendra reducta* ab. *reductissima* MURAYAMA et CHUNG. **ab. nov.** (fig. 8 & 17)

ここに2つの黒化型を記載する．すでに柴谷氏(Trans. Kansai Ent. Soc. vol. 13, No. 2, p. 30～31, Tab. 11, fig. 10)がのべたように *reducta* のタイプは非常に黒化したものであるから，恐らくここに示すような異常型に近いものであったと推定される．元来 *machendra* の原種は極めて白斑のよく発達した，殊に後翅表面中央白帯の頗る巾広いもので，フトミスジの名称は原種に関する限りふさわしいものというべきである．以上の理由で私共は *reducta* を今後台湾産の正常型の亜種名に用い黒化型には以上の如く別の名を附しておきたい．

Type 1♂ 埔里 7. IV. 1957 前翅長32mm，陳所蔵 表面前翅中室の白色横帯はその先端黒化して細くなり，さらにその先の三角斑は僅かに淡色の短条となって痕跡をのこす程度，第1・2・3・5・6・7各室の白紋は第1室のものが僅か小形の2個の白紋となるほか，すべて消失．外縁の小白紋列は殆んど消えるが，第1・2・4・5各室のものは僅かに微小の白点となる．後翅中央の白帯は内縁に近く稍々顕著に白紋をのこし，他は淡色の小紋となる．亜外縁の白紋列は各紋分離の傾向強く夫々の紋の輪廓はかなりぼかされているが，紋の大きさは正常

型よりむしろ巾が広い．翅表全体に正常型より黒味が強い．裏面前後翅を通じて全体に地色著しく褐色味が強く，光線の方向により紫色を強くあらわす．中室の白色棍棒状紋は大体正常型に近いが，心持ち先で細く，先端の三角斑は細い．第1室中央の白斑は内縁近くの部分に少し残る程度，第2・3・5・6各室の大形白紋も消え，外側の部分に薄い白斑の痕跡をのこす．亜外縁の各室白色紋列は第3室以外はむしろ大きくなる傾向を示すが，黒色鱗を交えるために正常型程鮮明でない．後翅中央白帯は細い小形の白斑紋列に退化し，亜外縁の白色紋列は大きくなる傾向を示し，上下両端には黒鱗を交える．以上の中央帯と外縁帯の間にある細い白斑列，ならびに外縁に近い白線は何れも正常型より一層白色味が強いが，相当黒鱗を交える．内縁の基部及び内縁の第7室の白斑は明瞭．

次に同様の傾向の異常型がいま1つある．

Paratype 1♂ 16. VI. 1956. Tainan, 前翅長30mm. 陳所蔵 (fig. 9 & 18)

前者の異常型と異る点は次の通り．表面前翅中室紋は先端でぼやけて消失し，その先にある三角斑は完全に消失．内縁に近い第1室の中央にある白斑は退化し，第1a室のみに残る．後翅はほぼ同様であるが，中央の白帯はより一層消失が強く，わずかに内縁近くと外縁近くに痕跡を残す程度．裏面前翅中室の三角斑は全く消失する．

Fig. 19 & 23 *Atella phalanta columbina* CRAMER (f. aest), (Formosa) LF: 29mm. Fig. 20 & 24 do f. *nitens* nov. Holotype (f. aut-hiem.) (Formosa) LF: 27mm, Fig. 21 & 25 *Atella phalanta* DRURY (Africa) LF: 29mm. Fig. 22 & 26 do (Java) LF: 27mm.

*Atella phalanta columbina* CRAMER ウラベニヒョウモンモドキ (fig. 19～26)

台湾産では私が本種(New Ent. Vol. 7, No. 1, 1958)を記録して以来，続々採集され，すでに数百頭に達し，日本でも同好者に相当行きわたった模様で当然亜種の問題の解決が必要となるが，他国産との比較材料が充分でないので仮りに上記の名で台湾産♂の特色のみを次にのべておきたい．私の検した個体は次の6♂♂で前翅

長26～31mm 位の ものである. (1) 10. IX. 1959, (2) 20. X. 1959, (3) 30. X. 1959, (4) 20. VI. 1959 以上 Falen. (5) 10. XI. 1959, Urai, (6) 2. XI. 1959 Gynai. ビルマ・ジャバ辺のものに比して総体に大きく翅表の黒紋の発達もよい. 裏面夏型は橙色味に乏しく, 前翅第2・3・4各室外縁近くの一帯, 後翅外半一帯は紫色を帯びるが, その色は余り鮮かでない. 第2・5・6各室の黒点をとりまく赤紋も褐色味を帯びて美しくない. 之に対して秋冬型は裏面地色著しく橙色味強く, 紫色も鮮かで後翅第2・5・6各室の黒点をとりまく赤紋は少しく朱色をおびて美しい. それで私共はこの秋冬型に対して f. *nitens* MURAYAMA et CHUNG (**f. nov.**) の新名を提出しておく. 手許のビルマ (VII. 1947) やジャバ (VI. 1940) の標本はむしろ台湾の秋冬型に近いが, 台湾のものは紫色の光輝が遙に強くて美しい. 上記(5)の個体を Holotype, (2)(3)(6)を Paratypes とする.

*Tacoraea cama zoroastres* ab. *melas* MURAYAMA (♂-ab) 本異常型は私が本誌 Vol. X, pt. 4, p. 67 fig. 10 & 11 に発表したものであるが, その際誤ってヤエヤマイチモンジ *T. selenophora laela* の異常型としたのでここに私の疎忽を詫び上記の通り訂正する.

## LYCAENIDAE

最近下野谷豊一氏が台湾より注目すべきミドリシジミ類の未知種を入手されたので同氏と共著で, 以下に記載する.

*Chrysozephyrus yuchingkinus* MURAYAMA et SHIMONOYA **sp. nov.** ホリシヤミドリシジミ (新種新称)

Type 1♂台湾台中州埔里, 1858年8月 YU CHING KIN 氏採集 下野谷豊一所蔵

Fig. 31 *Chrysozephyrus yuchingkinus* MURAYAMA et SHIMONOYA sp. nov. (Underside) (Formosa) LF: 18mm.

本種はムシヤミドリシジミに最も近似するが, 以下のべるように若干の注目すべき点で区別される. 前翅長18mmでムシヤミドリより小形である. ♂翅表前後翅を通じて黒褐色で緑色には光らない. 但しルーペでよくみると前翅中室に緑色鱗を散布している. 尾状突起はムシヤミドリ程長くない. 裏面地色灰白, 前翅亜外縁第1, 2室には顕著な黒斑あり, 第3室より上方は次第に不明瞭, その内側にある細い白線はムシヤミドリでは前縁に近づくに従い内方へ彎曲するが本種では曲らず, 外縁に全く併行である. この白線は第2室で止り, 第1室にはそれと少し内側にずれて極めて不明瞭な灰白短線がある. 後翅中央の白帯は割合細く, 肛角近くでムシヤミドリがW字状になるのに対し, 本種はV字状を呈する. 但し第1b室より第2室にうつるあたり白帯は少しくくいちがいをみせている. ♂交尾器もムシヤミドリと大いに異り, brachia は頗る細長, 先端で少しく曲り, valva も先端少しく長い. (写真では尾状突起は非常に短くみえるが実際はそれ程でない) 以上のように♂であって緑色に光らず裏面白帯がヒサマツミドリの如くV字状をなすことはまことに興味あるところで♂の緑色を呈しない種は *Chrysozephyrus* としては唯一のものである. 今後♀の発見が期待される.

Male Genitalia of *Chrysozephyrus yuchingkinus* sp. nov.
1. Lateral view 2. Brachium
3 & 4. Valvae

最後にこの貴重な材料を提供された YU CHING KIN 氏に深く謝意を表し学名を同氏に奉献した次第である.

*Favonius latifasciatus* SHIRŌZU et HAYASHI

ヒロオビミドリシジミ

本種は近年本州西部よりしられた特異な種で同好者の注目をあびているが, 私はすでに伯耆大山で1939年7月13日1♂(fig. 28 & 30)
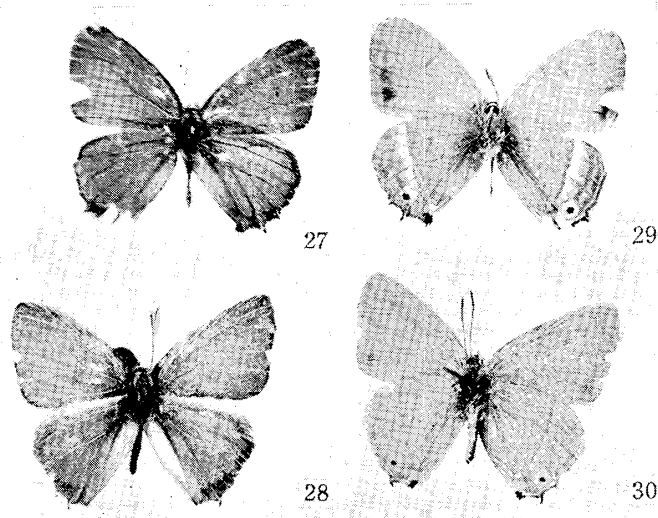
Fig. 27 & 29 *Favonius latifasciatus* ab. *mizudorii* nov. Holotype (Honshu) LF:19mm.
Fig. 28 & 30 *F. latifasciatus* SHIRŌZU et HAYASHI (Honshu, Daisen) LF:20mm.

を採集し，当時杉谷先生の御鑑定を乞うた結果，エゾミドリの異常型であるといわれ，爾来疑問を抱いていたところ，その後同先生のお手許にも同様な♂とそれに対応する♀が見出され，いよいよ別種であることが確かになったものである．この♂♀は帝釈峡産で中島悦次氏から交換により先生が入手されたものであった．近年兵庫県久崎でえられたもののうちから顕著な異常型を見出したので次に記載する．

*Favonius latifasciatus* ab. *mizudorii* **ab. nov.**

Type 1♂ 14. VI. 1959. 久崎 前翅長19mm. 村山所蔵 前後翅とも翅形著しく丸味をおび別種の如くである．表面後翅外縁の黒帯は著しく巾狭く，特に第4・5・6各室の外縁あたりは非常に狭く，一見オオミドリのようである．裏面地色灰色となり前翅は第1・2各室外縁近くに不鮮明な黒斑をのこし他の斑紋はすべて消失，但し中室端横脈紋のみ暗色で明瞭．後翅中央の白帯は外に向って流れ，地色との境は不明瞭，亜外縁には不明瞭な白紋列がある．肛角附近の橙色紋は全く分離するが，その中間にも小橙色点紋がある．尾状突起は正常型よりさらに短くウラジロミドリのそれのようである．新名は採集地でお世話になる水鳥栄一氏に奉献したものでこの機会に同氏及び岡村八郎氏に深謝したい．なお，この機会に New Ent. Vol. 7, No. 4, 1958. p. 6. fig. 13〜16で私が記載したヒロオビミドリ近似のウスリー産 *Favonius* に対し *F. ussuriensis* **sp. nov.** と命名しておきたい．


Resumé

In the present paper, we describe 2 new species, 1 new race, 1 new seasonal form, and 4 aberrant forms, of which seasonal as well as aberrant forms are published by Mr. CHUNG and MURAYAMA. The description of *Favonius ussuriensis* n. sp. allied to *F. latifasciatus* was already given in New Entomologist. Vol. 7, No. 4, p. 6. fig. 13〜16, 1958. *Neptis rivularis peninsularum* n. ssp. from Korea is smaller than ssp. *magnata* from Mongol, and differs from ssp. *insularum* from Honshu, in the point, that the ground colour of underside is more reddish brown and the white bands, spots are generally very distinct. *Atella phalanta columbina* f. *nitens* nov. is the autumn-winter form in Formosa. The purplish lustre of underside is strong and more beautiful. 4 aberrant forms of Formosan *Neptis* are all melanic forms. *Tacoraea selenophora laela* ab. *melas* described in "Tyo to Ga" Vol. X. Pt. 4, p. 67, is error of *T. cama zoroastres* ab. *melas*.

*Chrysozephyrus yuchingkinus* MURAYAMA et SHIMONOYA **sp. nov.** (fig. 31)
♂. Very closely allied to *Chrysozephyrus mushaellus* MATS., but differs from it in the following main points; (1) Upperside, darkish brown, being not metallic green as the male of general *Chrysozephyrus* and *Neozephyrus*, but bears the scattered green scales in discoidal cell of fore wing. (2) Underside, the white line of fore wing is exactly parallel with outer margin. the same of hind wing becomes V-shaped near anal angle. (not W-shaped as *muskaellus*.) (3) Somewhat smaller. Length of fore wing. 18mm. (4) Brachia of male genitalia very long and slender. Type 1♂ Poli (Central Formosa) August, 1958, Mr. YU CHING KIN leg.



日本鱗翅学会会報 "蝶と蛾"
日本鱗翅学会
大阪市東区今橋3丁目18 緒方病院内
振替口座京都15914番 電話 北浜 (23) 2255 代
1960年6月1日

Published by
**The Lepidopterological Society of Japan**
c/o OGATA HOSPITAL, No. 18, 3-chome,
Imabashi, Higashiku, Osaka, Japan.
1. June, 1960